

ゴーヘッドス 速報



第15号 平成25年6月23日

流れを呼んだ暢造・光希の返球・・・

勝利を引き寄せた林の適時打!

	1	2	3	4	5	6	7	R
D	3	1	1	0	0			5
G	1	0	4	3	x			8



6/23(日) 三ツ沢公園野球場にて春季区民大会3回戦@8決定を以て行なった。金曜日及び昨日の降雨が響き、見た目よりグラウンドは重状態であった。しかし、条件は相手も一緒、気持ちを切り替え勝負に望んだ。我がチームは後攻、先発は連脇が上がりプレイボールとなった。いつものように立ち上がり非常に気になる彼の立ち上がり、しかし、今日も立ち上がりはピリッとせず。先頭打者を四球で出塁、次打者には安打を喫し、無死一・二塁と初回からスコアリングポジションにランナーを背負う展開、更に三番打者にも四球を与え、無死満塁と初回から大量得点のシーンへととなった。しかし、四番打者を見逃三振に斬り、立ち上がりを見せたかに見えたが、続く二打者を四球・死球で押し出しの2点を与えた。続く打者には三遊間を破られ、三点を失った。しかし、後続を空三振、そして強いピッチャー返しだったが、素早く反応し、これをグラブで二塁へ送球し何とか三点止まりとした。その裏の攻撃、先頭哲也は四球で出塁、二番光希もラッキーな安打で無死一・二塁と早くも反撃ののろしを上げる。三番深沢はバントの素振りでも三塁手を揺さぶったが、全くもって反応無し。6球粘り7球目を三遊間に運びもサードに捕球され、セカンド走者が刺され、一死一・三塁、そして期待の四番昌平が打席に入る。3球目を叩き、打球は三塁へ、この打球で三塁より哲也がホームインし、1点を返す。しかし、後続が倒れ二者残塁とし、この回は1点止まり。2回相手の攻撃、この回の先頭打者にセンターに運ばれ出塁、後続は見逃三振に斬り一死、三番打者の時に二盗を決められるが、結局この打者を四球で出塁、次打者四番打者の時にDSを決められ、一死二・三塁とまたもや失点の予感、この4番の4球目にライトオーバーに運ばれ1点を失点したが、この打球処理を今日ライトに入った暢造が素早く二塁に送球し二死目を取ると、すかさず、ホームインを目指した走者を刺しに光希がホームに返球し、結果DPで最少失点の1点にこの回を抑えた。この守備でややリズムが我がチームに傾く。二回裏の攻撃、先頭の緑川が四球を選択し出塁、続く連脇には送りバントのサイン、しかし、2球遅れず、2ストライクを取られる。が、3球目を強振しこの打球が左中間を抜く2ベースに。場面は無死二・三塁と得点シーンに変わる。そして次打者哲に出された3球目のサインはスクイズ、が、バッテリーはこのサインを見抜き、ボールはウエスト、が、何とここで打者は投球をバットに当てるのではなく、引いてしまい、結果三塁走者を見殺しにしてしまった。この間に連脇は三塁へ進塁、依然得点シーンは続く。ここで打席に入った哲也が4球目を叩く。その打球は三塁ゴロ、しかし、コーチャーは回さず、一塁への送球後に三塁走者はホームへ進塁したが、結果5-3-2のDPとなり、流れに乗れず、この回0点。3回から林がマウンドに上がったが、この回先頭を四球で出塁、次打者には安打を喫し、無死一・二塁とまたもや失点シーンとなる。後続二打者を打ち取るも、9番打者にライトオーバーを打たれ、1点を失点した。しかし、次打者を打ち取り、この回を最少失点の1点とした。だが、時間も気になりベンチは重い空気が流れる。そんな中、この回は期待が出来る上位打線、が、2番・3番が凡打で倒れ二死となり、益々空気は重くなる。ところが、ここから奇跡の打線の繋がりを見せる。4番昌平が懸命な走りでも内野安打を獲得し出塁、その後5番打者の時に二盗を決め且つWPで三塁まで進塁、結果5番は四球を選択し出塁、6番の暢造は詰まったが、打球の方向良く三遊間を抜く、この打球で三塁より昌平がホームイン、次打者梶原の三遊間安打で二塁より祐太がホームインし、2点目、そして林が打席に入る、この林が粘り、7球目を左中間を破る安打を放ち、三塁より暢造、二塁より梶原がホームインし、奇跡の3連続安打でこの回同点とした。更に逆転かと思っただ、後続は倒れ、この回は同点止まり、だが、流れは完全に我がチームに降りた。4回の林は完全に立ち直り7球で三人を切るのと、この裏、またもや打線が繋がる。この回先頭の哲也が今日二個目の四球を選択し出塁、次打者光希が打った打球は投二のトライアングルゾーンへの打球、この連携により、相手野手が一塁への送球を捕球出来ず、無死一・二塁とした。そしてお寝坊祐太郎が打席に入り、その二球目を右方向に叩くと以外に打球は伸び、二塁より哲也がホームインし逆転に成功した。そして昌平の打席の時にWPで光希がホームインし点差を2点に。更に祐太の強襲ぎみの打球の間に祐太郎がホームインし、結果この回3点を挙げた。さー、ここまで来るとベンチはお祭り騒ぎ。この勢いに林も湧え、安打を喫するも、最後は三塁併殺打に斬り、最後はチーム一丸びしゃっと抑え、今日のゲームを勝利とした。今日のゲームは非常にしびれる内容であった。一昔前ならするすると敗戦していたかも知れない、しかし、勝つという気持ちがチーム一人ひとりに乗り移り奇跡の打線の繋がりを見せた。そんな中やはり感じた事は投手は四球を出さないという事。今日の失点は全て四球絡み。また走者・コーチャーも打球への反応が大事、という事は第二リードの取り方。また、サインへの履行は絶対と云ったところであろう。次は4決定、次もしびれる内容が想定されるが、今日の勝利に自身を持ち、まだまだチーム一丸上を目指そう! 昨年の屈辱を味わわないために・・・